

# ラッカセイ

ゆでれば甘く、煎れば香ばしい



菌が共生し、空気中の窒素を植物に供給するため、窒素の少ない土壌でも生育できます。種まき適期は5月～6月初旬です。

## 【品種】

ゆで豆向きには、晩生の「おおまさり」などがあります。1鉢の湯に大きじ2ほどの塩を入れ40分ほどゆでてぜひ食べてみてください。煎り豆向きで晩生の「千葉半立」、やや早生で最近育成された「Qなつつ」があります。

## 【畑の準備】

事前に1平方m当たり苦土石灰150gを散布して耕しておきます。深さ20～30cmの溝を70～80cm間隔で掘り、溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%)100gと堆

図1 畑の準備

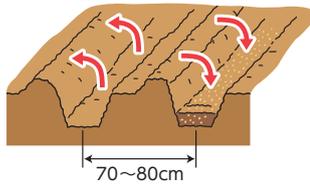


図2 種まき

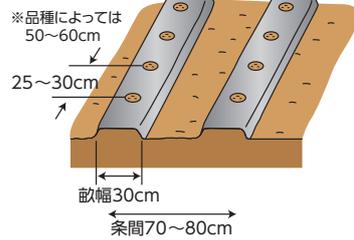
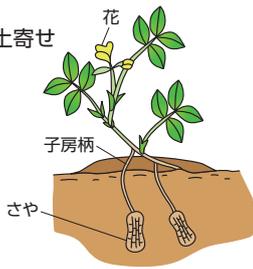


図3 土寄せ



肥2kgとを施し、土とよく混ぜ、溝を埋め戻します(図1)。窒素が多過ぎると「木ぼけ」し、実の付きが悪くなるため、野菜の後作では肥料を控えめに与えましょう。

## 【種まき】

土を盛り上げて幅30cm程度の畝を立て、種は25～30cm(「おおまさり」は50～60cm)の間隔で2粒まきます(図2)。鳥よけのためトンネル状にネットを掛けるか不織布でべた掛け、または、釣り糸を上部に張りましょう。小型ポットで本葉2枚くらいまで育苗してから植え付けることもできます。

## 【灌水(水やり)】

発芽までは十分に与え、その後はやや乾かし気味にしますが、夏の乾燥は実の太りに影響するので灌水すると良いでしょう。

## 【土寄せ】

開花後に株元に土寄せをします。この土寄せは子房柄が地中に入りやすくするためです(図3)。

## 1日1袋からでも! JAになすを出荷してみませんか?

JAではなすの出荷農家を増やそうと、なす生産拡大大作戦を実施中! 栽培技術や出荷方法について営農指導員がお応えしますのでお気軽にアグリセンターにご相談ください。



苗が大きくなった時に葉が重ならないようにあけて並べる(いわばソーシャル・ディスタンスですかね)



4月は夜間温度が下がるためハウス内でシートをかぶせます

※残った水滴に直射日光が当たるとレンズ効果で葉が傷んでしまうことがあるため



○ 灌水(水やり)は必ず株元に



× ジョロロで葉にかけない

## なす太郎のポイント指南

今月は

## 育苗と定植です

(苗を育てる) (植え付け)

農業では「苗半作」という言葉があり、「よい苗ができれば半分はできたようなもの」という意味です。

なす出荷農家の多くは4月初めにJAの育苗センターから「早期苗」を受け入れ、ふた周りほど大きなポットに植え替える「鉢上げ」をします。ハウスで約1カ月かけて育て、一番花が開花直前の5月の連休ごろ本圃(畑)に定植します。

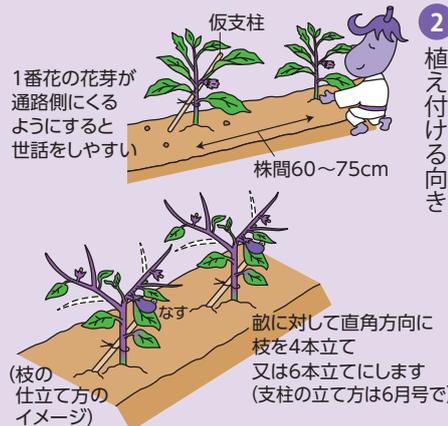
## 定植のポイント

1 植え付け前の水やりは苗と植え穴にそれぞれたっぷりと



苗は植え付ける当日に水をたっぷり与えます

2 植え付ける向き



1番花の花芽が通路側にくるようにすると世話をしやすい

株間60～75cm

畝に対して直角方向に枝を4本立て又は6本立てにします(支柱の立て方は6月号で)

3 植え付ける深さに注意



○ 根鉢の上面 畝の表面 根鉢をよけて仮支柱 支柱にむすんで固定させる  
× 接ぎ木部分を土に触れさせない 接ぎ木の意味がなくなってしまう 深植えは×